



大阪市里親会 2019年7月号

# 空 親見マンズリー



発行 大阪市里親会事務局

## 里親サロン

6月は北サロンで、里親の塩月さんに「ファミリーホーム体験談をお話して頂きました。今月はその内容を「紹介」します。ベテラン里親さんの体験談とあわせて、サロンは参加者で満員になりました。

塩月―里親になって20年、ファミリーホームを始め7年目になります。現在は男の子ばかり、4歳〜高校生まで5人を養育しています。スマホやパソコンやゲームに疎いので、子ども達とのジェネレーションギャップを感じますが、家族に協力して貰っています。

「子どもと真剣に向き合う時は、里親にとっても心をえぐられる様に辛い。それでも、それを越えなければ前には進めない」



自分でもよくやってるなあと思いつつ、経験が長いので、酷く虐待を受けた子や問題行動を起こす子の委託も受けています。警察のお世話になる事もあります。皆それぞれに背景や育ってきた環境が違いますが、日によって様子も変わるので、受け入れるのは大変です。

子どもが大きい程、愛着を築くのは難しいですね。

（私が養育してきた子ども達は）皆、心の中に母親がいて、とても大事に思っているの。私は自分の事を「おばさん」と呼ばせて、親を思う気持ちを大切にしています。

成育環境や年代などの異なる子どもを養育する中で、子どもにとって何がいいのか、自分に何が出来るのかを考えていると、6人という数字が適正なのか、疑問に思います。子どもと向き合うのは大変で、真剣に向き合い対峙する事で、自分の気持ち



を里子も気付いています。問題行動をする子どもには、どうして叱っていますか？

塩月―実子に遠慮なく叱るのは当然の事。まずは自信を持つ事だと思います。間違っている事に関しては「私はいこう思う！」と伝えていきます。研修を受けると気付きがありますよ。

里親B―どのように叱るかは、子どもの特性を見極めて、優しく諭すか、少し厳しく伝えるかを決めたいと思います。ただし、一貫性をもって、具体的に伝える事が重要です。

里親A―問題ある子が多い中で、うまくいったケースはありますか？

塩月―（学業や生活の安定について安心して送り出せたという意味では）母親が過剰な心配性で外出や登校を制限されていた中学生が保護され、うちに来ました。彼は慣れない環境で頑張る、塾に通うと成績も伸びて、今はゴキゲンに大学に通っています。元々母親にも愛情があったので帰る家があり、学費も親族に用意して貰えるという恵まれたケースでした。

里親B―育った環境に問題がある子どもは社会的スキルも乏しく、愛着面にも問題があります。彼らの「ごめん

なさい」は、反省の言葉ではなく、暴力を回避するための言葉であったりします。本音の言葉で謝罪ができず、暴言暴力で相手に返してしまつて、その場の人間関係や感情で生きていくために仕事や人間関係が安定せず、とても生き辛い思いをする事になる。私は自分のもとに必要な間に、生きていくために必要なスキルを身に付けてコミュニケーションがとれたり、社会の中で他人と共存できるようになつたら成功だと思つていま

里親C―人間関係を築いていくためには愛着が大切だと思うのですが、それがうまくできるかどうかわかりません。

里親B―褒めてあげて下さい。日常の些細な事から少しずつ回数を増やして、「この人は自分を認めてくれる」と子どもが思つたら、少しずつ上手いき

大きい子に同じ様にしたら「褒められるのは苦手だからやめて」と言われましたが、回数を減らして続けていたら、ある日「私は褒められて伸びる子だ」と言いだしました。いつからやねん（笑）

相談員A―大人にとつて都合がいい事を勧めるのではなく、何でもない事を勧めるのが大切ですね。週末里親が久しぶりにかつた子に「会えて嬉しい」と言っているのは凄く大事な事です。何かできたからではなくて、存在を認める。

週末里親―実際に久しぶりに会うと、また背が伸びたなどといったような事ができるようになっているなあと思つています（笑）

里親B―ところで、塩月さんが書いていた「おかあさん」（実親）の問題ってどうなんだろう？私は、子ども達がいつか親から自立しないといけないのではと思つています。酷い事をされても子は実親を美化する。酷い虐待を受けていた子が小3くらいから実親の事等を話すようになって、これも相談

ンターの担当者に相談した子どもにも告知する事になつて、実親の知れた事や乳児院に行った事、そして幸せになるために里親の家に来たのだと全て話して素晴らして、子どもは黙ってそれを聞いた後で大泣きして、その後はすっかり落ち着いた。着いて前向きになりました。

塩月―私は実親と里子が面会した際に「何と呼んでいいの」と聞かれて、子どもが「おばちゃん」と答えたので実親が「ああ、よかった」と言つた事がきっかけで、子ども達には「おばちゃん」と呼ばせています。成長するに従つて、自然に実親と里親の存在を区別して考えられると思つていま

お話は尽きませんが、ここでサロン終了の時間となりました。貴重な体験談を話して下さいました。塩月さん、ありがとうございました。里親サロンでは、経験豊富な里親さんや里親支援専門相談員さんが、皆さんの悩みやお話をじっくり聞いてくれます。また、今回のような体験談や研修は養育する上でとても役立つので、ぜひご参加下さい。

## 次回研修

講師：辻 由起子氏  
講演：「大人が変われば子どもが変わる」



8月18日〜19日に神戸フルーツフラワーパークに1泊して「夏季研修＆レクリエーション」を開催します☆  
研修中や自由時間はボランティアさんが子ども達と楽しく遊んでくれます。また、お子さん的人数が多いご家庭や支援が必要なご家庭にはボランティアが率先してお手伝いしますので、安心してご参加下さい。施設内はプールやミニ遊園地、食事はバイキングです。食キョーなど、きつと子ども達の楽しい思い出になりますよ！

## ご寄付・ご招待



プロバスケットボールクラブ 西宮ストークス  
ご寄贈頂いたTシャツは現在110cm、130cm、150cmの在庫があります。Tシャツの応募は里親会事務局まで！



スパワール 世界の大温泉！  
株式会社 阪神住建  
後期（9月参加分）はまだ募集中です！  
ご招待頂きました株式会社 阪神住建様、毎年ありがとうございます！